

2018年 原点回帰と変革
戊戌 明治維新150年

浅野 介^{よし} 敬^{ひろ} (良裕)

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

今年は干支で言うと「戊戌」、戊（つちのえ）、戌（いぬ）になります。

干支は十干十二支からなっており、「戌」は十干「甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸」の生命サイクルの5番目にあたり、勢いよく葉が茂る様を表しており、繁栄を意味していると言われていいます。

また戌は、陰陽五行「木、火、土、金、水」では「陽の土」にあたり、土は東西南北のどこにも関わらない中心であり、春夏秋冬のどこにも属さず立春、立夏、立秋、立冬の直前の18日間・土用の期間になっています。土は山のように強固・頑固で安定しているとも考えられるが、他方四方や四季のどこにも属さず、不安定な状態ともとられ、バランスが崩れれば、どちらにも転ぶ可能性があると言われていいます。

また「戌」は十二支「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」の11番目にあたり、この生命の成長サイクルでは、枯れた木を表し、終焉、滅亡、終わりを意味しています。

つまり「戌」が繁栄を意味するのに対して、「戌」は滅亡を表しており、まったく逆の関係にあります。

そして「戌」は陰陽五行の分類では「陽の土」にあたり、「戌」と同じです。このような「陽の土」×「陽の土」の関係は、相互を最強に強め合い、互いに打ち消しあうことはなく、どちらに転んでも持てる属性を最大限に発揮すると言われていいます。

したがって2018年の「戊戌」という干支が意味するものは、繁栄か滅亡か極端に現れる不安定な年といえるでしょう。

150年前の1868年、明治維新の年は、戊辰戦争の年でもあり、「戊辰」（つちのえ たつ）の年でした。「辰」も同じ「陽の土」にあたり今年と同じ「陽の土」同士です。

明治維新はそれまでの江戸時代の封建社会から近代化へ変わる大きな節目でした。

現在もいろいろな意味で社会は転換期にあり、世界は様々な課題を抱えています。気候変動、戦争の不安、経済格差等々。国家レベル、世界レベルで解決していかなければならない問題にどのように対処していくのでしょうか。今年はその重要な選択の年です。

また企業レベルでも、去年は日本の強みであるはずの製造業で、偽装等様々な問題が発覚してきました。明治以来の近代化、富国強兵、そして戦後の経済発展を担ってきたシステムに制度疲労が起こってきています。

こうした時には、もう一度原点に戻って、物事をより本質的に、仕事や生活の本来の目的を見つめなおすことが必要ではないでしょうか。

変革の時代にこそ原点回帰・本物志向が大切です。現代における個人や企業、国家、世界の課題解決のために、生活や仕事の内容を原点から新たな視点で見つめ直すとき、新しい創造・進化へのサイクルが始まるかもしれません。

一歩一歩、一瞬一瞬に意識を込めて、惰性からではなく新たに歩き始めることです。